

umika Kura
hatsubai!
Kumitaikagakougyou

WANTED!

サイズに
適用拡大!

農林水産省登録
第22353号
自然に学び自然を守る




アゼナ



イヌホタルイ



タイヌビエ



コナギ



クログワイ

4つの除草パワーで あなたの水田を守る!



水稲用中期除草剤

クミメート[®]SM 1キ粒剤

クミメート[®]SM 1キ粒剤

- 有効成分：シメトリン……………4.5%
ピリミノバックメチル……………1.0%
ベンフレセート……………6.0%
MCPB……………2.4%
- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)

特長

1. パワフル除草剤

4つの有効成分の働きにより、ノビエをはじめとする一年生雑草から、各種の多年生雑草やアオミドロ、藻類による表層はく離まで、幅広い雑草に優れた殺草効果を発揮するパワフルな中期除草剤です。

2. ワイドな散布適期

各種雑草に対する殺草適期幅が広く、ノビエは発生前～3.5葉期、ホタルイは3葉期、ウリカワ、ミズガヤツリは4葉期、ヘラオモダカは3葉期、クログワイは発生始期、オモダカは広線形葉4葉期、シズイは草丈3cm、アオミドロ・藻類による表層はく離には発生始期までの適用があります(地域により葉齢が異なる場合があります)。

3. 抵抗性雑草にも有効

SU剤に感受性の低下したホタルイ、アゼナ、コナギ等にも効果を発揮します。

適用雑草および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール 当り使用量	総使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ(北海道を除く) ヘラオモダカ(北海道、東北、九州) ヒルムシロ クログワイ(北海道を除く) オモダカ(東北、関東・東山・東海) シズイ(東北) アオミドロ・藻類による表層はく離(九州を除く)	移植後20日～ ノビエ3.5葉期 但し、 収穫60日前まで	砂壤土～埴土	1kg	本剤:1回 シメトリン:2回以内 ピリミノバックメチル:2回以内 ベンフレセート:2回以内 MCPB:2回以内	湛水 散布	全域(九州を除く)の 普通期及び早期栽培 地帯
	九州の早期栽培地帯						
直播水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	イネ5葉期～ ノビエ3.5葉期 但し、 収穫60日前まで	壤土～埴土				全域(九州を除く)

上手な使い方(移植水稲)

使用時期(移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、適期に散布してください)



使用上の注意

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに散布してください。
- 特に多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布してください。各雑草の散布適期は以下の通りです。

ホタルイ	…3葉期まで
ウリカワ	…4葉期(北海道、関東・東山・東海、近畿・中国・四国は3葉期、東北、北陸は2葉期)まで
ミズガヤツリ	…4葉期(東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国は3葉期、北陸は2葉期)まで
ヘラオモダカ	…3葉期(東北、九州は2葉期)まで
クログワイ	…発生始期まで
オモダカ	…広線形葉4葉期まで
シズイ	…草丈3cmまで
アオミドロ・藻類	…発生始期(関東・東山・東海、近畿・中国・四国は発生前)まで
- クログワイ、オモダカ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のもめまでは十分な効果を示さないで、有効な前処理剤と組み合わせて使用してください。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 散布時は、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～5日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、止水期間中の入水は静かに行ってください。
- 移植またはは種前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には雑草の発生状況をよく観察し、適期に散布してください。

- 以下のような条件下では、薬害を生じやすいので使用をさけてください。
 - 散布後の異常高温(急激な温度上昇、梅雨明け前後の高温)が予想されるとき
 - 散布時が高温で蒸散がけい場合
 - 苗が軟弱な場合や活着不良のとき、または極端な深植の場合
 - 極端な浅植の水田、浮き苗の多い水田
 - 砂質土壌の水田、減水深が2cm/日以上の水田、透水不良田、天水田、強還元田および未熟有機物多用田
 - 2cm以下の浅水および7～8cm以上の深水の場合
 - 整地の不均整な水田
- 直播水稲に使用する際の注意事項
 - 稲の根が露出した条件下では薬害を生じるので使用をさけてください。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
- 処理後低温が続く場合には稲苗の生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、処理時期の平均気温が15～16℃以下になるような場合には使用をさけてください。また、稲5葉期未満では使用しないでください。
 - 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、使用をさけてください。
 - 散布田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
 - 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないでください。
 - せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、隣接田で使用する場合は十分に注意してください。
- 使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

本資料は平成24年8月現在の知見に基づいて作成されております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記帳しましょう。